

BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

2013/5/24 19:53

区分	戦略的目標	BSCの当初目標設定内容			年度末 進捗状況				評価・今後の対応
		業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン	アクションプラン取組の有無	アクションプラン実績	数値目標実績	4段階評価	
患者の視点	患者満足度の向上	今後も当院に通いたい人の割合	外来85% 入院85%	患者アンケート調査	○	10月のアンケート調査実施に向けて、質問項目、昨年度の調査結果の反映状況などの確認を行った。	外来91% 入院94%	A+	1. 概ね満足度は高かったが、満足度の低い項目は、外来で、駐車場、診察待ち時間の負担、待ち時間の気遣いの3項目、入院では施設面全ての項目。 2. 施設面での対応は困難だが、診察待ち時間の負担軽減のため、呼び出し器の設置を試行する。
	発達障害支援強化	閉鎖病棟開設調査研究着手	先進地視察	閉鎖病棟の情報収集 年間予想患者数調査	△	将来構想検討委員会の提言として、精神症状の強い発達障害患者への対応について「他県施設の視察等、設置に向けた検討」が挙げられた。	検討委員会の提言	B-	1. 委員会の提言を受け、院内若手ワーキンググループによる検討を進める。 2. 関係者からの事情聴取や他県施設の視察等を進める。
		感覚統合療法(SI)年間延べ患者数	780人	発達障害患者への感覚統合療法を推進するため、作業療法士の資格取得を推進する	○	作業療法士の感覚統合療法認定講習会への参加など資格取得を推進した。	1,001	A+	1. 異動による作業療法士の補充は予定どおり進んだ。 2. 今後は、資格が取得できるよう、業務と調整を図りながら講習会を受講できるよう支援していく。
	リハビリの充実	リハビリ入院患者数	30人	入院リハビリの体制を強化するため、理学療法士の増員を図る。	◎	昨年度2名いた非常勤の理学療法士が年度末で退職したが、今年度、新たに常勤の理学療法士1名が増員され、体制が整いつつある。	30人	B	1. 育休中の職員が復帰して体制が整いつつある。 2. 今後とも、より効率的・計画的なりハビリを進めていく。
		外来リハビリ患者数	20,000人		○		13,130	B	
	診療科の充実	眼科医レジデント1名獲得	1名確保	眼科医師との情報交換。行程の具体化。	○	本来、眼科の常勤医確保が必要であり、医科大学への派遣依頼を行っているが、困難な状況にあり、代替案としてレジデントを短期で受け入れる制度について検討を進めている。	派遣依頼先と協議中	B-	1. 関係大学への要望を行ったが依然常勤医派遣は困難な状況にある。 2. 引き続き、関係大学への依頼を行う。
新たな医療サービス		1件	アンケート調査による患者ニーズの分析	△	将来構想検討委員会の提言として眼科、内分泌・代謝科、泌尿器科、腎臓内科などニーズの高い診療科の医師の常勤化やニーズに応じて「新たな診療科の充実」が挙げられた。	検討委員会の提言	B-	1. 委員会で診療科の充実が議論され、提言に盛り込まれた。 2. 今後は、院内若手ワーキンググループによる具体的な検討を進める。	
慢性疾患患者の救急体制強化	救急受け入れ患者数(外来・入院)	外:350人 入:180人	救急依頼から診療までの業務改善	○	当直医師1名により、時間外における患者(初診を除く)の受入を行っている。必要時には、オンコールによるサポート体制を敷いている。	外:374人 入:176人	A	1. 現在のところ特に問題なく業務が行われている。 2. 今後、改善点があればその都度対応していく。	
財務の視点	病床利用率の向上	病床利用率	75.0%	病床利用率のモニタリング	◎	定期的な会議において、各病棟別、各科別の利用状況がわかる資料を配付し、昨年度との比較分析を行っている。	71.4%	A	1. 昨年の実績を上回り、70%を超えることができた。 2. 今後とも利用状況の把握に努め、適切に対応する。
	財務の安定	レセプト返戻数(率)	390件	診療報酬請求説明会の定期開催	◎	定期的な会議において、診療報酬を減点された内容、理由等がわかる資料を配付し、復点対策や、今後の減点防止に取り組んでいる。	253件	A	1. チェック体制強化により返戻件数は減少した。 2. 今後は、減点数の減少に向け、院内への啓発を強化していく。
		レセプト減点数(率)	370件		◎		481件	B	
内部プロセスの視点	病棟機能の充実	術後回復室の試行	計画策定	現状調査および分析、対応検討	○	将来構想検討委員会の提言として、ICUの治療に必要なスペースのある個室の増室やNPPV導入支援センター機能など「重症化する障害児への対応」が挙げられた。	検討委員会の提言	B	1. 委員会で重症化する障害児等への対応が議論され、提言に盛り込まれた。 2. 今後は、院内若手ワーキンググループによる具体的な検討を進める。
		小児NPPVセンターの開設	計画策定						
	在宅医療・ケア支援の充実	療養環境整備策実施数	5件	療養環境改善案の定期募集	○	病棟内ナースステーション手洗い場を感染防止の観点から改修した。	1件	B	1. 職員提案の応募数が少なかった。 2. 今後とも、職員提案を活かした療養環境の改善に努める。
		年間受入数	1,500人	レスパイト受付窓口の設置	○	レスパイト受入窓口や受入基準を設定し、7月から運用を開始した。また受入基準を当センターのホームページでも告知し、周知を図った。	2,423人	B	1. 院内での協議が予定どおり進んだ。 2. 今後とも利用者の要望に対応していく。
	小児から成人へのシームレスな医療サービス提供支援	訪問看護ステーションとの連携ケース数	30件	小児看護の技術指導	○	看護管理者研修会等にて、地域、訪問看護ステーション等に向けての出前研修や受入PRを実施した。在宅との連携を強化するために、訪問看護とのカンファレンスの実施やびわこ学園との医療・福祉情報共有会議に出席した。	18件	B	1. 訪問看護ステーションとの連携に向けた準備は予定どおり進んだ。 2. 今後とも関係機関との情報共有に努める。
		成人対象医療機関への紹介成功患者数	10人	県立リハセンターとの連携システム構築	○	将来構想検討委員会の提言として、在宅医療のための病診連携の強化、診療所とのネットワーク化・後方支援、成人専門施設との病診連携の推進など「成人に達した患者への対応」が挙げられた。	検討委員会の提言	B	1. 委員会で成人に達した患者への対応が議論され、提言に盛り込まれた。 2. 今後は、院内若手ワーキンググループによる具体的な検討を進める。
				地域診療所との連携システムの構築	○				
	地域連携の強化	医師会向け障害児者医療・ケアの研修会開催	○	地域医師会(守山野洲、草津栗東、湖北医師会)で当センターとの連携について説明を行った。	3回	A	1. 地域医師会を通じた地域の診療所との連携が進みつつある。 2. 今後とも地域医師会を通じた連携を進めていく。		
		成人化した患者の紹介窓口の設置	○	これまで退院調整(看護部)、地域との連絡調整(保健指導部)、医療相談(事務局)に分かれていた体制を見直し、保健指導部に整理、再編した。	1人	B	1. 保健指導部にMSWや看護師を配置することで院内の体制が強化された。 2. 今後は、具体的な成果が出るように努める。		
	医療安全の徹底	紹介患者数・率	2,300人	開放病床設置研究開始	○	将来構想検討委員会において、地域診療所との連携について検討が行われたが、開放病床に関する議論はなされなかった。	2,007人	B	1. 委員会で地域医師会からは必要性の意見はなく、検討の必要性は低い。 2. 今後、開放病床の検討はとりやめ、障害児の在宅療養支援という面で地域との連携を進める。
逆紹介患者数	1,500人	広報誌への連携病院紹介記事掲載	○		1,419人				
医療安全の徹底	レベル3b以上の事故数	0件	同一インシデントの発生削減強化	○	毎月、医療安全管理委員会を開催し、医療事故の分析を実施している。ワーキンググループによる現地確認を行い、事故原因の解明と発生予防に努めた。	1件	B	1. 医療安全管理委員会やワーキンググループによる調査は予定どおり実施できた。 2. 今後とも、事故原因の解明と医療事故の発生防止に努める。	
職員満足度の向上	今後も当院で働きたいと答える職員の率	83%	職員アンケート調査結果の反映	◎	7月に病院事業庁による職員アンケート調査の実施に協力するとともに、調査結果を院内の運営会議で報告した。	71%	B+	1. 評価点自体は、3病院の中で当センターが最も高かったが、前回、前々回より点数が少し下がった。 2. 毎回、古い施設の更新や職員の増員に対する要望が多いが、対応は困難な状況にある。	
活発な広報活動	HPの情報更新頻度	1か月に2回	HPのリニューアルを促す部門の設定	△	当センターのホームページは全面的な改定が行われず、診療案内等を中心とした情報更新に止まった。	1か月に2回	A-	1. 担当職員の休職により業務が停滞した。 2. 外部委託を含め、業務の執行体制を見直し、対応する。	
	年間発行数	年4回	広報発行回数と時期の遵守	△	年報は作成されたが、広報誌は作成に至らなかった。	0	C		
学習と成長の視点	教育の充実	レジデント数	9人	新たなカリキュラム策定	◎	整形外科で、新たに短期の受入プログラムを開発した。	9人	A+	1. 短期受入プログラムの開発により受入数が増加した。 2. 今後とも、多様な研修カリキュラムにより新規レジデントを呼び込む
		資格取得者数(看護師)	5人	資格取得費用援助	○	医師、看護師、コメディカル等が専門資格を取得する際の経費を病院が負担することにより、専門医、認定看護師等、各種資格の取得を支援した。	4人	B	
		専門医等の資格取得数	25	資格取得職員の有効配置 資格取得へのモチベーション作り	○		29	A	
		専門資格取得数(コメディカル)	8人		◎		8人	A	
		専門研修派遣者数	120人	適切な研修の選定	◎		各部署へ関係機関が実施する院外研修を周知し、職員が積極的に参加するよう努めた。	143人	
	研究活動の活性	年間学会発表数	70回	発表費用援助	◎	学会発表数 診療局72回、看護部15回	87回	A+	1. 概ね予定どおり進んでいる。 2. 今後とも研究活動を支援する
論文発表数		20本		◎	論文発表数 診療局17本、看護部4本	21本	A+		

(注)事故件数はレベル3b(濃厚な処置や治療を要した場合)以上のものとする。事故とは、過誤・過失の有無にかかわらず医療の全過程で発生する全ての人身事故をいい、これには患者自身の不注意による転倒等も含まれる。